

令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	家庭、技術・家庭科 [家庭分野]	愛知県教育委員会	
月日・曜	小：6月24日(月) 中：6月25日(火)	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 丸山 早苗			
家庭科の移行期間中の実践課題について			
<ol style="list-style-type: none"> 1 2学年間(3学年間)を見通した指導計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ A(1)ア(ガイダンス、生活の営みに係る見方・考え方、家族・家庭の基本的な機能、A、B、Cと関連を図る) ・ 他教科等との関連 2 育成する資質・能力の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校の系統性 3 新しい内容を踏まえた題材の開発 4 資質・能力の育成に向けた授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決的な学習(学習過程) ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(ICTの活用) 5 家庭、地域との連携 6 指導と評価の一体化 			
小 学 校		中 学 校	
1 2学年間(3学年間)を見通した指導計画の作成について			
(1) 家庭科で育てたい児童(生徒)の姿が明確になっているか。			
(2) 2年間(3年間)の指導の流れを考え、題材を配列しているか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A家族・家庭生活」(1)「自分の成長と家族・家庭生活」のA <u>ガイダンス</u> →第5学年の最初に履修 →A、B、Cの各内容の学習との関連 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A家族・家庭生活」(1)「自分の成長と家族・家庭生活」のA →第1学年の最初に履修 →家族・家庭の基礎的な機能とAからCまでの各内容との関連 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A家族・家庭生活」(4)「<u>家族・家庭生活についての課題と実践</u>」 →2学年で一つ又は二つの課題を設定して履修 →「A家族・家庭生活」の(2)「家庭生活と仕事」又は(3)「家族や地域の人々との関わり」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容との関連 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「A家族・家庭生活」(4)「<u>家族・家庭生活についての課題と実践</u>」、「B衣食住の生活」(7)「<u>衣食住の生活についての課題と実践</u>」、「C消費生活・環境」(3)「<u>消費生活・環境についての課題と実践</u>」 →三つの項目のうち一以上を選択し、履修 →他の項目と関連を図り、課題を設定 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 段階的な題材の配列を <ul style="list-style-type: none"> ・ 「B衣食住の生活」(2)「調理の基礎」 ・ 「B衣食住の生活」(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」 →平易なものから段階的に学習できるように配列 ・ 基礎的なものから応用的なものへ ・ 簡単なものから複雑なものへ ・ 繰り返しによる定着 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校5年間を見通す <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の内容の系統性を確認する(高等学校の内容の系統性についても確認) ・ 生徒の習得状況などを把握 ・ 各題材の指導内容を明確にし、題材を段階的に配列(製作) 	
(3) 新しい内容等は踏まえられているか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆでる材料としての青菜やじゃがいもなど ・ 日常生活で使用する物を入れるための袋など ・ 幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり ・ 献立を構成する要素としての主食・主菜・副菜 ・ 音 ・ 買物の仕組みや消費者の役割 など 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者など地域の人々との協働、介護など高齢者との関わり方 ・ 蒸す調理 ・ 和食(だしを用いた煮物又は汁物)、和服など、日本の伝統的な生活 ・ 衣服等の再利用の方法 ・ 自然災害に備えた住空間の整え方 ・ 物資・サービスや消費者被害 ・ クレジットなどの三者間契約 など 	

(4) 指導内容の関連を図って題材を構成しているか。	
<ul style="list-style-type: none"> 「A家族・家庭生活」(2)「家庭生活と仕事」のイ→「B衣食住の生活」との関連 「A家族・家庭生活」(3)「家族や地域の人々との関わり」のイ→他教科の学習との関連 「A家族・家庭生活」(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」→「A家族・家庭生活」(2)又は(3)、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容との関連 「B衣食住の生活」(6)「快適な住まい方」のア(ア)→暑さ・寒さは、「衣服の着用と手入れ」のア(ア)の日常着の快適な着方と関連 「C消費生活・環境」(2)「環境に配慮した生活」のイ→内容の「B衣食住の生活」との関連 	<ul style="list-style-type: none"> (2)「B衣食住の生活」「A家族・家庭生活」(6)「住居の機能と安全な住まい方」のA及びイ→内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連 「C消費生活・環境」(1)及び(2)→内容の「A家族・家庭生活」又は「B衣食住の生活」の学習との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 他教科との効果的な連携を <ul style="list-style-type: none"> ① 他教科との関連ある内容を洗い出し、学習状況を把握する。 ② 他教科等の学習時期を考慮して、題材の設定や配列を工夫する。 ③ 指導計画に他教科との関連を位置付ける。 ④ ガイダンスでこれからの学習の見通しをもたせる。 	
(5) 各題材に適切な時間を配分しているか。	
(6) 指導すべき内容に漏れがないかを確認しているか。	
2 生活の営みに係る見方・考え方について	
(1) ガイダンス・自分の成長	
(例) <ul style="list-style-type: none"> 第5学年の最初のガイダンス：1時間 →第4学年までの学習を振り返る。 →2学年間の学習に見通しをもつ。 →生活の営みに係る見方・考え方に触れる。 第5学年のまとめ：1時間 第6学年のまとめ：1時間 学期や題材の区切り：2時間(0.5×4) <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長への気付きが段階的に深まる。 自分の成長とそれを支えてくれる家族の大切さに気付く。 	「生活の営みに係る見方・考え方」の視点 <p>※主として捉える視点については、大きい丸で示している。取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかは異なる。</p>
(2) 「生活の営みに係る見方・考え方」と連携を図る。	
<ul style="list-style-type: none"> 「A家族・家庭生活」(1)「自分の成長と家族・家庭生活」のAで触れる「生活の営みに係る見方・考え方」との関連を図る。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 「B衣食住の生活」(1)食事の役割(4)衣服の主な働き(6)住まいの主な働き 「C消費生活・環境」(1)消費者の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭の基本的な機能を「A家族・家庭生活」(1)「自分の成長と家族・家庭生活」に位置付ける。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>家族・家庭の機能については、家庭分野の各内容と関連を図るとともに、家族・家庭や地域における様々な問題を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等の視点から捉え、解決に向けて考え、工夫することと関連付けて扱うこと。</p>
3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について	
第3章 指導計画の作成と内容の取扱い (小・解説P.71) 1(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解すると	第3章 指導計画の作成と内容の取扱い (中・解説P.120) 1(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解す

もに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること。

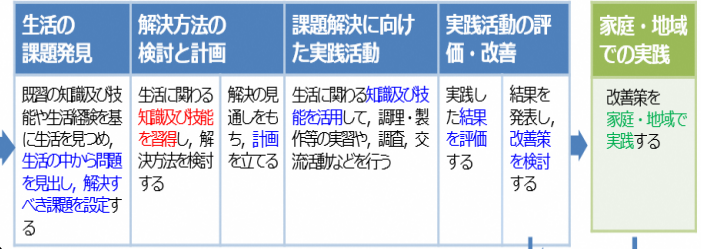
るとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

4 資質・能力の育成に向けた授業づくりについて

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 実践的・体験的な活動の充実
- ・ 言語活動の充実
- ・ 家庭や地域との連携
- ・ 障害のある児童への指導
- ・ 個に応じた指導の充実

など

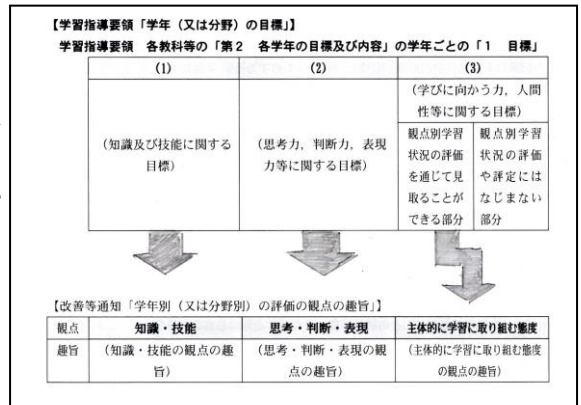
家庭科の学習過程の参考例



* 上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

5 家庭科における学習評価の改善について ～観点別学習状況評価と評価規準～

- (1) 「指導と評価の一体化」のための学習評価について
 - ・ 児童生徒の学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
 - ・ 児童生徒が自らの学びを振り返って、次の学びに向かうことができるようにする。
 - 観点別学習状況の評価
 - 評価規準
- (2) 目標と観点の趣旨との対応関係について
右図参照
- (3) 「内容のまとまりごとの評価規準」の作成
「2内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの。
※ 家庭科、家庭分野については、学習指導要領の目標及び分野の目標の(2)に思考力・判断力・表現力等の育成に係る学習過程が記載されているため、これらを踏まえて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要がある。
- (4) 内容のまとまり



小学校	中学校
<p>「A家族・家庭生活」(1)自分の成長と家族・家庭生活 (2)家庭生活と仕事 (3)家族や地域の人々との関わり (4)家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>「B衣食住の生活」(1)食事の役割 (2)調理の基礎 (3)栄養を考えた食事 (4)衣服の着用と手入れ (5)生活を豊かにするための布を用いた製作 (6)快適な住まい方</p> <p>「C消費生活・環境」(1)物や金銭の使い方と買物 (2)環境に配慮した生活</p>	<p>「A家族・家庭生活」(1)自分の成長と家族・家庭生活 (2)幼児の生活と家族 (3)家族・家庭や地域との関わり (4)家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>「B衣食住の生活」(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事 (3)日常食の調理と地域の食文化 (4)衣服の選択と手入れ (5)生活を豊かにするための布を用いた製作 (6)住居の機能と安全な住まい方 (7)衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>「C消費生活・環境」(1)金銭の管理と購入 (2)消費者の権利と責任 (3)消費生活・環境についての課題と実践</p>

- (5) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順（小学校家庭科）

- ① 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

例 小学校家庭科「B衣食住の生活」(6)快適な住まい方

学習指導要領 2 内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 住まいの主な働きがわかり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。 (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。	イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。	※内容には、学びに向かう力、人間性について示されていないことから、教科の目標(3)を参考にする。

【観点ごとのポイント】

指導事項アについて文末を「～を(～について)理解している」「～を(～について)理解していると、適切にできる」とする。
※A(1)については「～に気付いている」

指導事項イについて文末を「～について問題を見いだして、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている」とする。

「～について、課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている」

内容のまとめ(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・住まいの主な働きがわかり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。 ・住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解していると適切にできる。	・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について、問題を見いだして、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	・家族の一員として、生活をよりよくしようと快適な住まい方について、課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し、実践しようとしている。

(6) 「学習活動に即した評価規準」を作成する際の基本的な手順 (小学校家庭科)

- ① 「内容のまとめごとの評価規準」を作成する。
- ② 「内容のまとめごとの評価規準」を学習指導要領解説における記述を参考に具体化し、「学習活動に即した評価規準」を設定する。

学習活動に即した評価規準(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・住まいの主な働きについて理解している。 ・季節の変化に合わせた生活の大切さについて理解している。 ・季節の変化に合わせた住まい方について理解している。 ・暑さ・寒さへの対処の仕方 ・明るさの取り入れ方 ・音と生活の関わり ・住まいの整理・整頓を理解していると、適切にできる。 ・住まいの清掃の仕方を理解していると、適切にできる。	・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について問題を見いだして、課題を設定している。 ・暑さ・寒さへの対処の仕方 ・明るさの取り入れ方 ・音と生活の関わり ・整理・整頓の仕方 ・清掃の仕方 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について(実践に向けた計画を)考え、工夫している。 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方についての課題を解決に向けた一連の活動について、考えたことをわかりやすく表現している。	・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・生活をよりよくしようと、季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について工夫し、実践しようとしている。